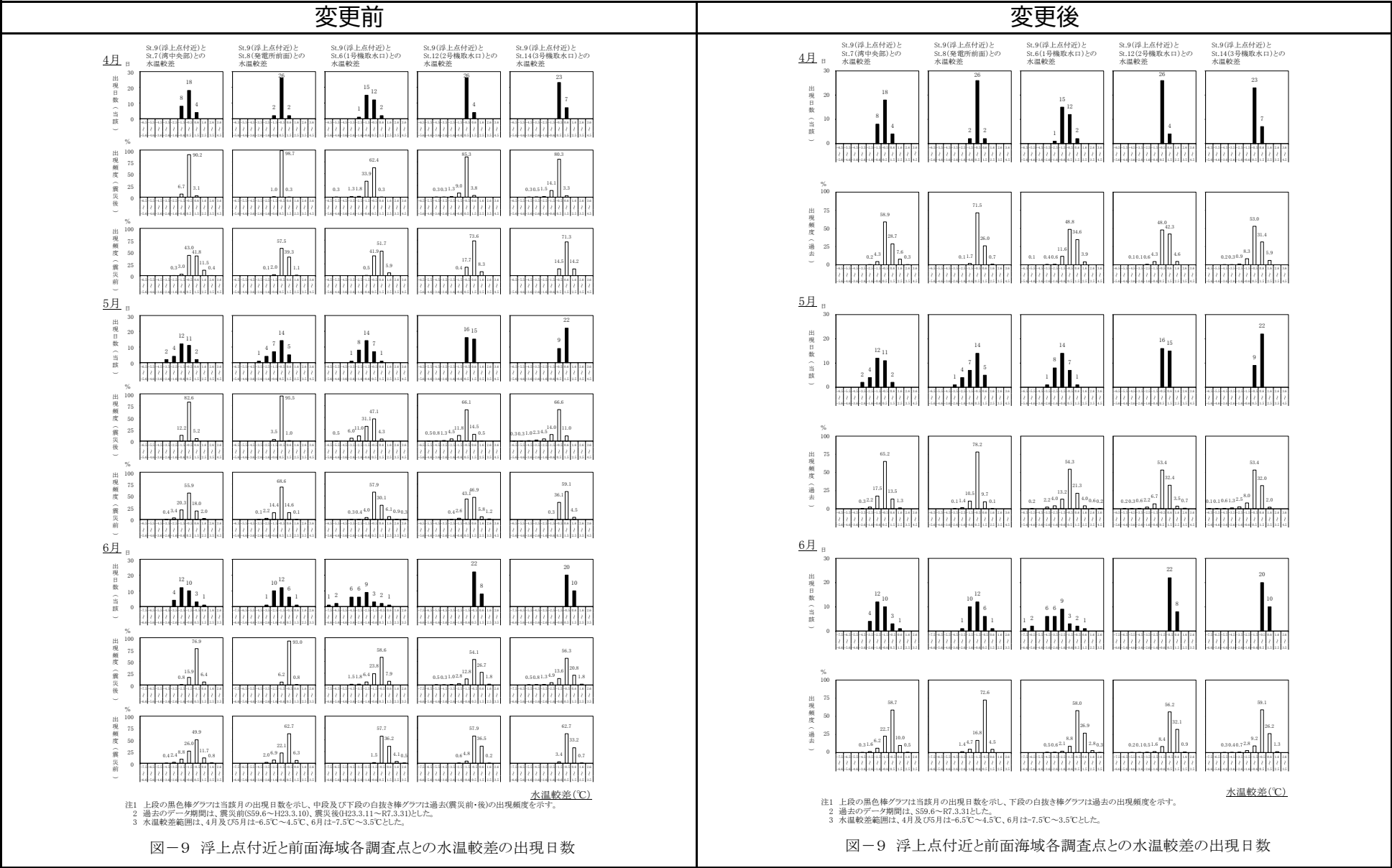


第１７７回女川原子力発電所環境保全監視協議会資料

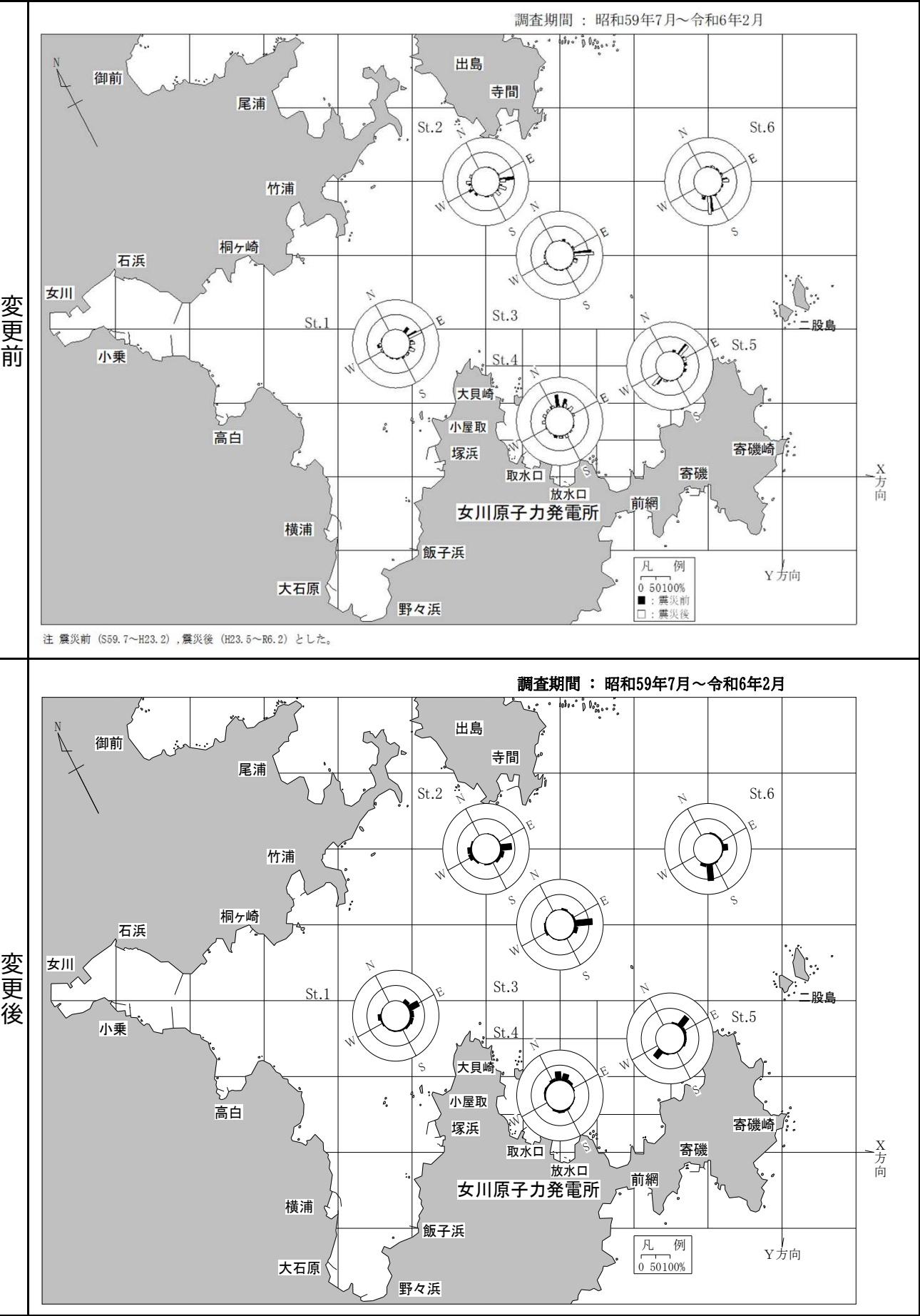
女川原子力発電所温排水調査結果の四半期報
および年報の様式変更について

- ・ 女川原子力発電所温排水調査の調査項目のうち、水温・塩分調査および水温モニタリングについては四半期毎に調査結果を報告しており、その他の流向流速・水底質・生物調査については、年報としてとりまとめのうえ報告しています。
- ・ 四半期報及び年報において、調査結果を過去の調査結果と比較して報告しています。震災後、女川原子力発電所の稼働停止に伴い、温排水の放水停止期間と放水期間の調査結果を比較することの妥当性についてご指摘を受け、平成 29 年度第 3 四半期報及び同年度年報から、過去データを震災前後で分けて示しています。一方、水温モニタリング及び流向流速についてのみ過去データを震災前後に区分したため、調査項目間で過去データの示し方が統一されていませんでした。
- ・ その後、女川原子力発電所 2 号機が再稼働し、温排水の放水再開後の調査データが蓄積されてきたことを踏まえ、調査項目間で過去データの示し方を統一するとともに、再稼働後の調査結果を過去からの長期的な変動の中で比較・評価しやすくするため、令和 7 年度年報から、震災前後の区分を設けず、全調査期間の結果を一体的に示すこととします。
- ・ これにより、すべての調査項目において、再稼働後の調査結果と過去の調査結果との比較が容易になります。このような中、女川原子力発電所 2 号機再稼働後の調査データが蓄積されてきたことから、「水温モニタリング結果」は令和 8 年度第 2 四半期報告書から、「流向流速結果」は令和 7 年度報告書から、過去データを震災前後で区分せずに過去調査結果をとりまとめるものです。

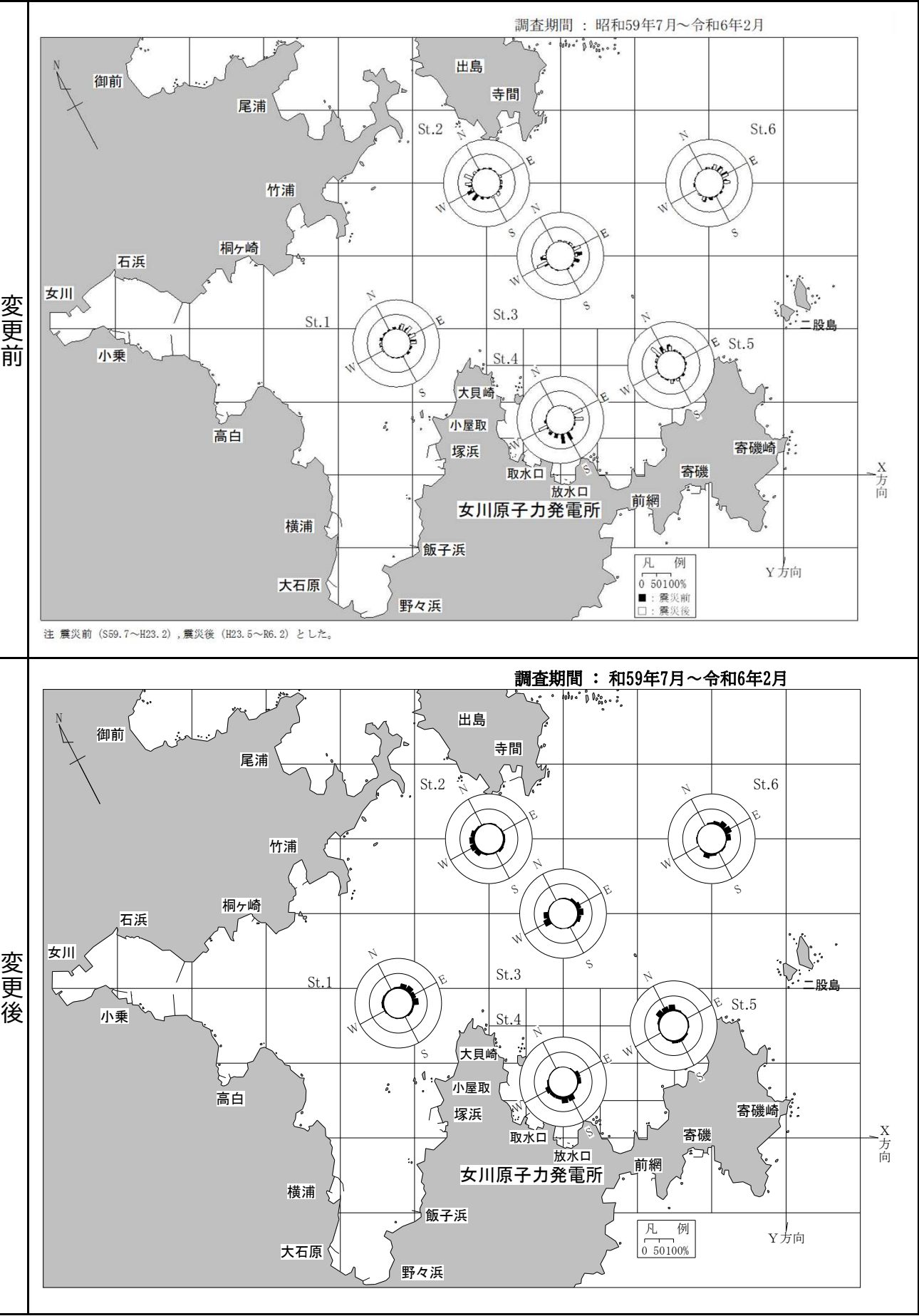
四半期報告書様式見直し（図 - 9：浮上点付近と前面海域各調査点との水温比較差の出現日数）



年報様式見直し（図－４－（２）：過去の最多出現流向（上層））



年報様式見直し（図－５－（２）：過去の最多出現流向（下層））



年報様式見直し（図－６－（１）：最多流速出現範囲の出現頻度）

变更前

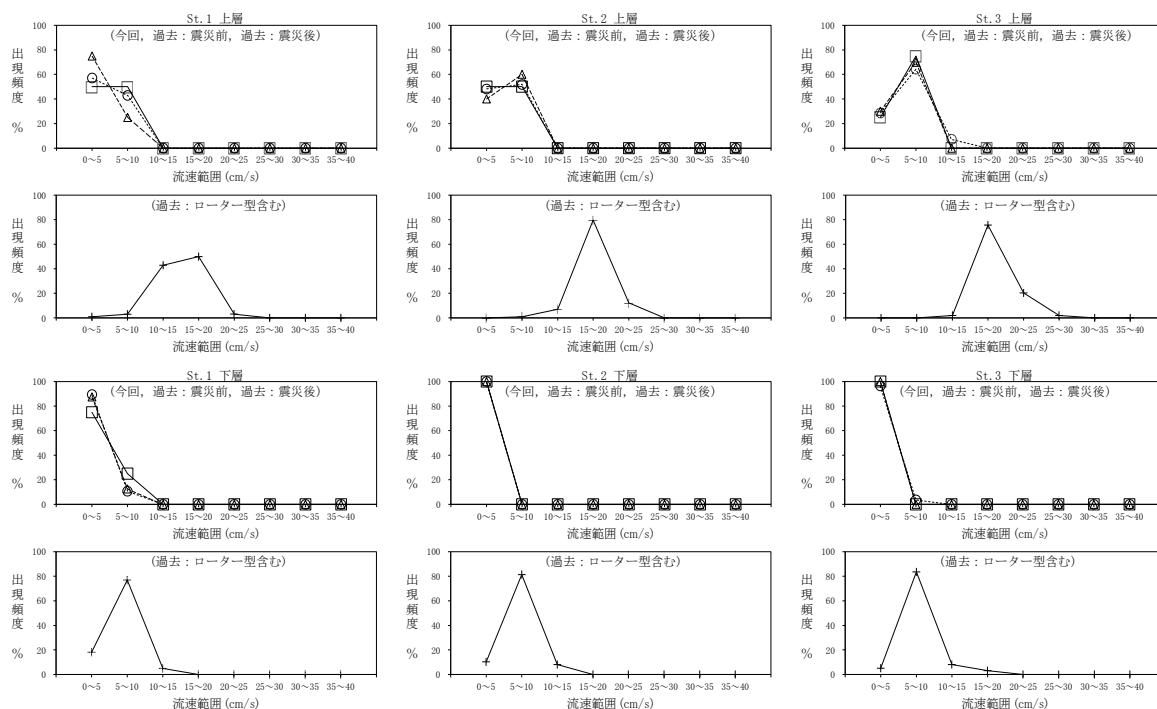


図-6-(1) 最多出現流速範囲の出現頻度

凡 例	□—□	R6.4～R7.2 (今回)
	○---○	H23.5～R6.2 (過去：震災後)
	△--△	H19.5～H23.2 (過去：震災前)
	+—+	S59.7～H19.2 (過去：ローター型含む)

注1 宮城県は、S59.7～H11.7までローター型流向流速計を使用し、H12.1からは電磁流向流速計を使用した。
2 東北電力は、S59.8～H19.2までローター型流向流速計を使用し、H19.5からは電磁流向流速計を使用した。

變更後

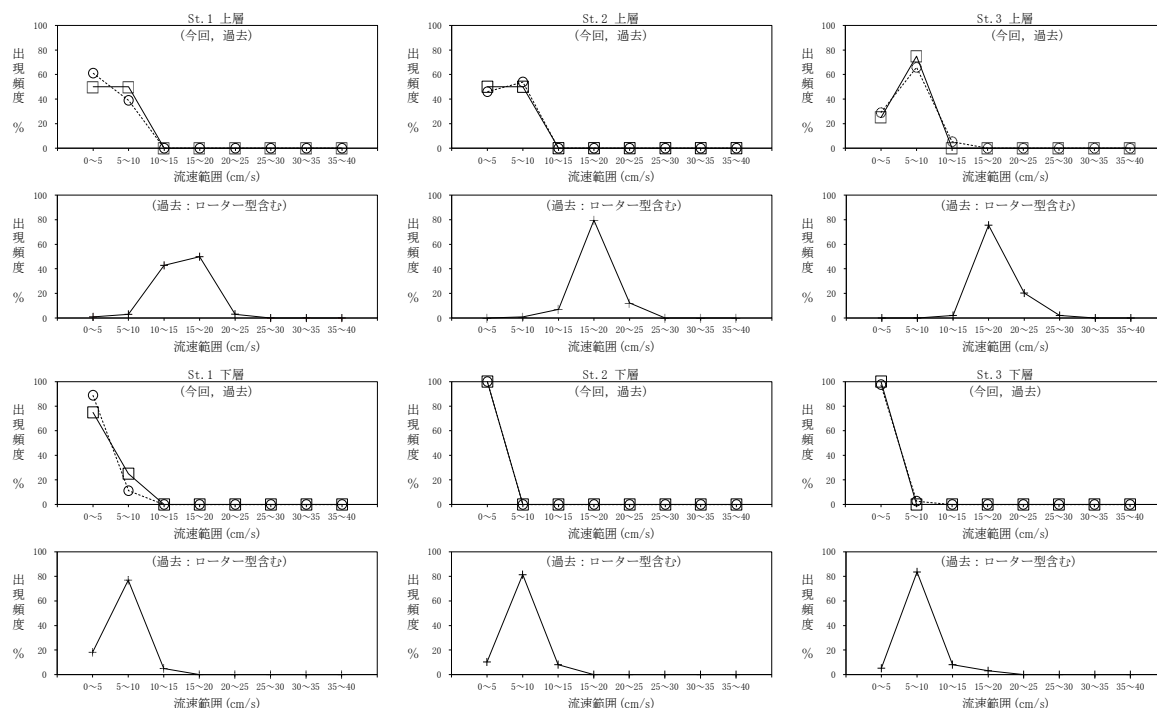


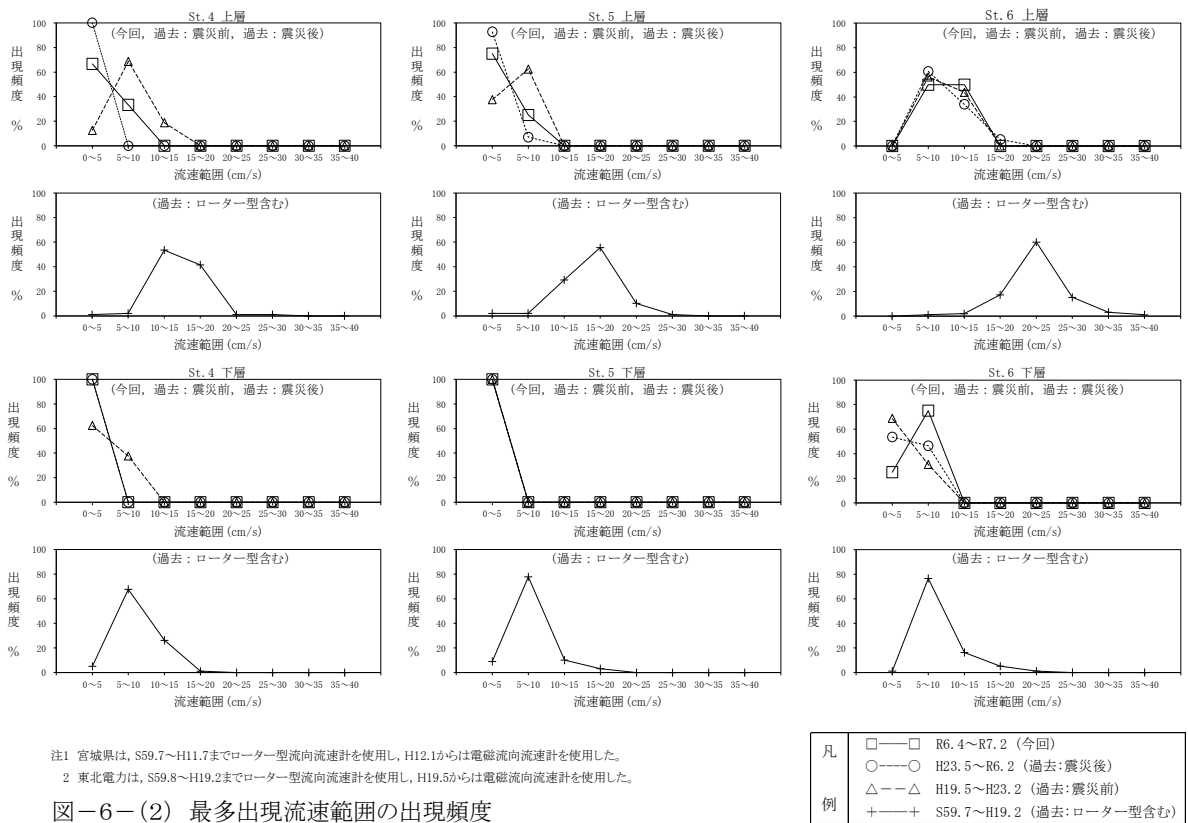
図-6-(1) 最多出現流速範囲の出現頻度

凡	□—□ R6.5~R7.2 (今回)
	○---○ H19.5~R6.2 (過去)
例	+—+ S59.7~H19.2 (過去:ローター型含む)

注1 宮城県は、S59.7～H11.7までローター型流向流速計を使用し、H12.1からは電磁流向流速計を使用した。
2 東北電力は、S59.8～H19.2までローター型流向流速計を使用し、H19.5からは電磁流向流速計を使用した。

年報様式見直し（図－６－（２）：最多流速出現範囲の出現頻度）

変更前



変更後

